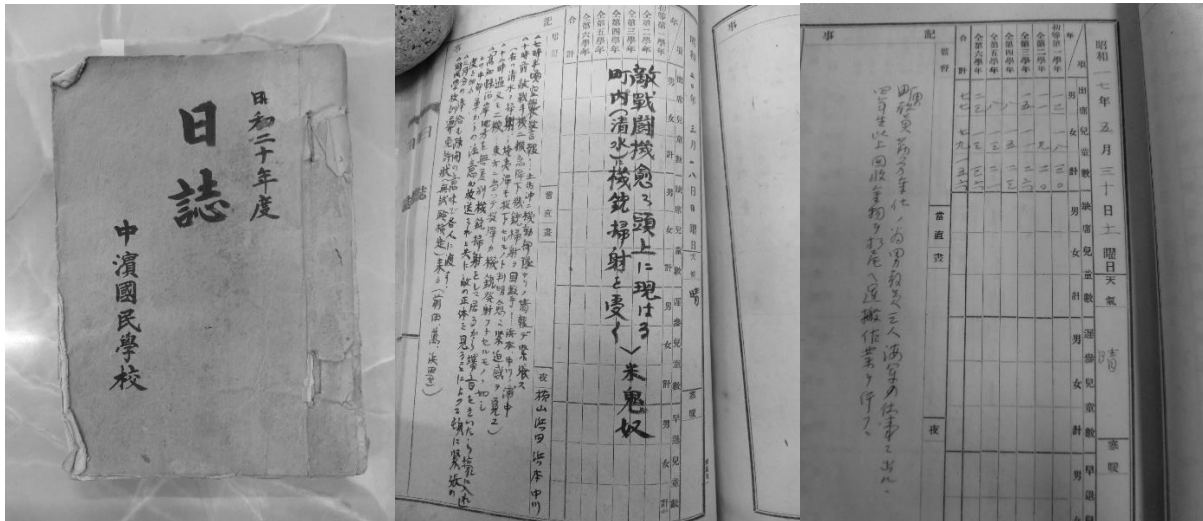


『学校日誌』と市史編さん事業に関わり学習院大学 で研究報告を行う！

今月 14 日(水)～16 日(金)、東京都豊島区目白に所在する学習院大学北 1 号館 2 階の教育共同研究室にて「基盤研究(B)21H00822 戦時教育令と教育崩壊過程に関する総合的研究」における合同研究会が開催された。

この研究の代表研究者である斉藤利彦学習院大学名誉教授にお招きをいただき「『学校日誌』から見えてくるもの」と題し、1 時間ほど研究報告をさせていただいた。併せて、3 月末で事業が完了する土佐清水市史編さん事業についても話を加えさせていただいた。以下、紙面の関係上『学校日誌』部分の一部のみではあるが、その概要を報告する。

(1) 戦時中の『学校日誌』から見えてくるもの



↑『昭和 20 年度中濱国民学校』(昭和 20 年 3 月 18 日)

↑『昭和 17 年度伊佐国民学校日誌』

〔昭和二十年(一九四五年)現在の土佐清水市域空襲一覽表〕

3月18日	清水町・伊豆田村
3月19日	幡多郡各地
4月7日	清水町(一名統整)
4月17日	伊豆田村(建物被害)
4月18日	清水町(死者一名・重傷三名・不明一名)
4月21日	清水町(死者一名・重傷一名・軽傷一名)
4月22日	三崎村・伊豆田村
4月26日	幡多郡各地
4月29日	三崎村(軽傷一名)
5月3日	下川口村(死者数人)
5月10日	清水町(死者数人)
5月11日	伊豆田村・清水町・下川口村
6月28日	清水町(死者六名・重傷三名・不明者一名)
7月3日	清水町(死者・重傷者数名)
7月9日	清水町(死者・重傷者数名)
7月11日	清水町(軽傷一名)
7月16日	清水町(死者一名・重傷五名・不明一名)
7月17日	清水町(死者一名・重傷三名)
7月18日	清水町(死者一名・重傷三名)
7月23日	清水町(死者・重傷多数)
8月5日	清水町
8月10日	清水町

昭和 20 年 3 月沖繩戦以降、本土への戦闘機による機銃掃射が激しくなり、現在の土佐清水市域でも 3 月中旬から 8 月初旬にかけて機銃掃射や空爆が盛んに行われていた様子を垣間見ることができる。

また、『昭和 17 年度伊佐国民学校日誌』では、呉海軍警備隊傘下の足摺探信所の建設が昭和 17 年 5 月末頃から開始され、小学生や訓導(教員)等がこれに協力していること

が日誌の記述から見て取れる。

昭和十七年六月二十九日 月曜日 晴曇

四年生以上 木材運搬作業 天草採取

四年以上木材運搬作業、
又天草採取

昭和十七年六月二十九日 月曜日 晴曇
四年生以上 木材運搬作業 天草採取

昭和十七年五月三十日 土曜日 晴

町男教員 勤勞奉仕ノ為 男子教員三人海軍ノ仕事に出た
四年生以上 回収金物を松尾へ運搬作業を行う

昭和十七年五月三十日 土曜日 晴
町男教員 勤勞奉仕ノ為 男子教員三人海軍ノ仕事に出た
四年生以上 回収金物を松尾へ運搬作業を行う

右、昭和十七年五月三十日の日誌には、町内の小学校男性教員3人が勤勞奉仕により海軍の仕事に出たことが記されている。海軍の仕事とはこの年5月末から始まった足摺山尾根上に設置予定の足摺探信所（レーダー基地）の建設作業で間違いないと思われる。また、4年生以上の小学生は隣り集落の松尾へ回収した金物をリヤカーで運搬している。

同じ年の6月29日の日誌では、4年生以上の小学生は、木材の運搬作業と天草の採取を行っている。足摺探信所は、兵舎・退避壕・本部指揮所・弾薬庫と銃座・レーダー設置基礎とレーダー・その関連施設及び連絡路からなる。兵舎には100名規模の兵士が駐留していたと思われる。伊佐国民学校の教員も、小学生も勤勞奉仕の大義名分のもとに軍事施設の建設の一翼を担った。ここには沖ノ島の若い女性たちで構成される女子挺身隊も伊佐公会堂に寝泊まりして建設に協力した。また、強制労働により徴用された朝鮮人の姿も見え隠れする。

昭和二十年七月四日 水曜日 晴

学校庭溝あげ作業 塵捨場修理
防空壕のごみさらいを 受持ち 受持ちで
整頓する

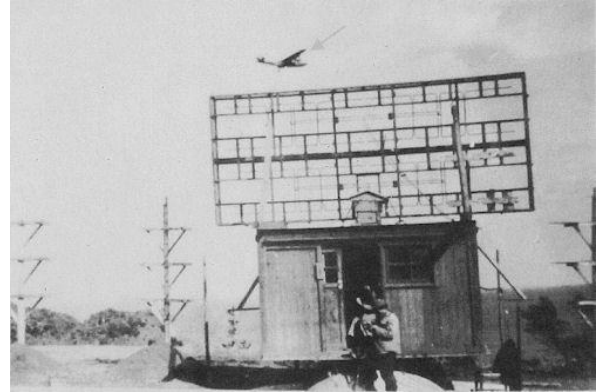
昭和二十年七月四日 晴
学校庭溝あげ作業 塵捨場修理
防空壕のごみさらいを 受持ち 受持ちで
整頓する

昭和二十年四月三十日 金曜日 晴

一 戦捷国難 調伏祈願祭執行 於白山神社
清水漁業会主催
一 宮村訓導病氣 欠勤
一 十二時十分警戒 警報発令 一時解除

昭和二十年四月三十日 晴
一 戦捷国難 調伏祈願祭執行 於白山神社
清水漁業会主催
一 宮村訓導病氣 欠勤
一 十二時十分警戒 警報発令 一時解除

『昭和20年度伊佐国民学校日誌』4月30日では、清水漁業会が主催して日本の戦争の勝利を祈願して、白山神社（白山同門上にご神体が祀られている）において米国の調伏祈願を実施している。また、7月4日の記事には、校庭の溝掃除、防空壕の溝さらいなどが行われたことが記録されている。このように戦時下の学校生活の日常を垣間見ることができる。



足摺探信所に設置されたレーダーのコンクリート基礎部分(左)とレーダー(右)



今回の合同研究会の参加者は次のとおりである。

- 北海道大学名誉教授 逸見勝亮 先生（教育史学）
- 埼玉大学名誉教授 森川輝紀 先生（教育学史学）
- 学習院大学名誉教授 斉藤利彦 先生（教育史学）
- 立教大学名誉教授 前田一男 先生（教育史学・教育学）
- 学習院大学教授 須田将司 先生（教育史学）
- 土佐清水市教育委員会生涯学習課市史編さん室長 田村公利（歴史地理学・教育学）

斉藤利彦先生を代表とする「基盤研究(B)21H00822 戦時教育令と教育崩壊過程に関する総合的研究」は、本年度をもって終了であるが、次回は墨塗の『学校日誌』の研究をしたいという意向があり、土佐清水市の『学校日誌』にも墨塗が多く存在し、研究材料にさせていただきたいとお伝えした次第である。